

ご挨拶

～東都文京病院 2017 年の秋～

この夏、国連では核兵器禁止条約が 122 か国・地域の賛成多数により採択されました。しかし、全核保有国と米国の核の傘の下にある日本などは不参加でした。一方、北朝鮮は国連決議を無視して核・ミサイル開発を進め、周辺国の脅威となる核兵器を有すると推察されるに至っています。国際的緊張が次第に高まりつつあるなかで、命の尊さと世界平和への願いを強く感じざるを得ません。

さて、東都文京病院では、6月5日よりリハビリテーションセンターがスタートし、理学療法機能が充実しました。8月には2階病棟のリニューアル工事が行われ、妊産婦さん、産後の母子ケア、女性外来の患者さんなどの受け入れ態勢が強化されました。9月現在、3階病棟を「地域包括ケア病棟」として運営する施設基準を満たすよう整備しています。また、10月中には入院透析治療体制も整え、高齢者に対応する医療・ケアの充実を図ってまいります。

東都文京病院が発足し3年6か月が経過しました。病院再建の歩みは着実に進み、第一段階の2病棟体制、第二段階の3病棟体制は軌道に乗り、第三段階の「地域包括ケア病棟」を中心とする病院機能の充実が進められています。「地域包括ケア病棟」の運営には、「地域包括ケアシステム」の一員として、医療・介護・ケアの他施設との連携が重要です。急性期治療後の患者さんの受け入れ、在宅復帰の支援、緊急時の受け入れ、レスパイト入院(ショートステイ)への対応などが求められます。

東都文京病院は、地域の多様なニーズに応える「小回りの利く総合病院」として、地域医療連携ネットワークでの役割を果たしてまいります。また、急性期から回復期の機能に加えて、周産期・小児医療、健診まで幅広い領域で対応し、地域の皆様の健康を守ってまいります。さらに「地域包括ケア病棟」など病院機能を強化・充実させ、地域での役割を果たしてまいります。今後とも皆様のご支援とご協力をお願い致します。

2017年10月1日

東都文京病院院長 杉本充弘